

実践することの大切さ

『耕人塾』の趣旨は人間力を磨いて地域社会に貢献する人材を育成することですが、「実践」を特に大切にしています。前号では実践事項である「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の一つ一つについて、どのように実践していけば人間力に結びつくのかを書きました。今回はなぜ実践することが人間力を磨くことに繋がるのかを書きたいと思います。

荀子（じゅんし：中国戦国時代の思想家・儒学者）は次のように言っています。

聞かざるはこれを聞くにしかず	聞かないよりは聞くほうがよい。
これを聞くはこれを見るにしかず	聞くよりも見るほうがよい。
これを見るはこれを知るにしかず	見るよりも知るほうがよい。
これを知るはこれを行うにしかず	知るよりも実践するほうがよい。
学はこれを行うに至りて止む	学問は実践に結びつくことが大切である。

私たちは、日々の暮らしの中でこうすればよいとかああすればよいと思うことがたくさんあります。でもなかなか行動に移せないことが多いものです。私も心では思っているのに実践に結びついていないことがたくさんあり、反省したり後悔したりすることが度々あります。30代の頃に生徒指導で悩んでいた時、「迷ったら動くことだ」と先輩の先生に教えられたことがあり、まず実践してみることを学ぶきっかけになりました。最近は、分からないことがあったら即聞くことにしています。私には彫刻や木工、パソコン等の師匠が何人かいて聞くことによって新しい発見をすることがたくさんあります。また、良いと思うことはできるだけ実践するようにしています。実践してみると見たり考えたりしては分からないことを見つけたり、実践することで壁を乗り越えられたりすることがあります。

私が今実践していることの一つに「ほう・れん・そう・にん・じん」があります。「ほう＝報告、れん＝連絡、そう＝相談、にん＝確認、じん＝迅速」です。そうするようになったのは、失敗や迷惑をかけたことが何度（いつかお話しします）もあったからです。最近は特に「迅速」を心がけています。例えば、メールの返信はその日のうちにする。手紙やはがきの返事は3日以内に出す。頼まれた場合は即動く。経過報告が必要な場合はその都度するという事です。それでも忘れることや失敗することがありますが、その時は素直に謝るようにしています。

実践を通じて学ぶことが自分を謙虚に見つめることに繋がり、継続する中で習慣化し、日々の実践が「人間力」を磨くのではないかと思います。『耕人塾』の実践事項である「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」が習慣になり、周りに広がっていったら素晴らしいですね。

「差別も偏見も受け入れよう」（第26回新聞記事コンクール河北新報社賞から）

10/15の宮城学院中2年久保弥羽音（くぼみほね）さんの文章（抜粋）を紹介します。

「私の弟は発達障害という名前の障害と一緒に生きています。見た目は普通の小学生です。但至少少し不思議な雰囲気がありました。小学校へ入学した弟と登校班の集まり場所へ行った私は、ある保護者の弟を見る目や態度に違和感を抱いていました。あることから、私たち姉弟は集団登校から外れ、2人で登校しました。当時の担任の先生は、弟への偏見と私が独りぼっちで闘った事実を知るとすぐホームルームを開き、差別や偏見があつてはいけないと教えてくれました。そのおかげで私は差別や偏見を受け入れようと思う強さを身に付けました。差別や偏見をなくすことは難しいです。だから私は差別や偏見を受け入れました。けれど、差別や偏見を助長する社会を作つてはいけない。今の自分だからこそ、心から伝えていきたいと思ひます。」

あなたははどうしていましたか？これからどうしますか？